

令和5(2023)年度第3回公の施設指定管理者選定委員会概要報告

柏崎市財務部財政管理課

- 1 開催日時 令和5(2023)年10月24日(火) 午後1時00分から午後5時00分まで
- 2 場 所 柏崎市役所4階4-3、4-4会議室
- 3 出席者 ○選定委員(五十音順)
齋藤委員(委員長)、阿部委員、金子委員、橋本委員、吉田委員
○事務局(財政管理課)
星野課長、西巻係長、田邊主査
○施設所管課
(商業観光課) 田辺課長代理、佐藤係長、中村主査、田村主査
(子育て支援課) 石橋課長代理、常盤主査

4 概要

今年度指定管理者の更新手続を公募で行う3施設について、指定管理者候補者を選定した。決定事項及び選定審議の流れについては、(1)及び(2)のとおり

(1) 決定事項

ア ワークプラザ柏崎

指定管理者候補者：公益社団法人柏崎市シルバー人材センター

イ 柏崎海洋センター(シーユース雷音)

指定管理者候補者：公益財団法人かしわざき振興財団

ウ 新潟県立こども自然王国

指定管理者候補者：株式会社生態計画研究所

(2) 選定審議の流れ

申請事業者がプレゼンテーションを行い、質疑応答及び委員間での全体審議を経て、各委員が審査シートを記入した。審査シートは事務局が集計、その結果を委員長から発表し、出席委員全員の了承を得て、指定管理者候補者を選定した。

5 委員会の要旨

(1) 開会

(2) 議事

ア 定足数の確認について

委員6名中5名が出席していることから、定足数を満たしていることを確認した。

イ 指定管理者の選定対象となる団体と委員との特別な関係の有無の確認について

特別な関係がないことを確認した。

ウ 会議の公開の適否について

会議は非公開とする。

エ 公募施設の指定管理者候補者選定方法の説明

<事務局から説明>

オ ワークプラザ柏崎の選定審議

申請事業者：公益社団法人柏崎市シルバー人材センター（以下「シルバー人材センター」という。）

<プレゼンテーション> 申請書を基に説明（説明者3名）

<質疑>

E 委員： 利用者ニーズを把握するためのアンケート調査の方法はどのように工夫しているか。

申請事業者： ロビー入り口に投函箱を設置し、ここで得られた「お客様の声」にある要望等は最優先事項と捉えている。また、アンケート対象者を毎年変えるなどし、形骸化しないよう工夫している。

なお、毎年のモニタリングの参考としており、アンケート結果は、非常に良い評価をいただいている。

E 委員： コンサート、フォーラム等は具体的にどのようなものを考えているか。また、講座の内容は、体操等が多く偏りがあるように感じるがどうか。

申請事業者： 5年分全ての計画を立てるのは難しいが、フォーラムは市内福祉団体と共催し、講演会やワークショップを実施する計画がある。コンサートは、利用団体に多くの音楽団体がいることから、発表の場として開催しようと考えている。

また、講座の偏りについては、空き時間に開催できる講座を計画するため、平日日中に需要のあるヨガやピラティスが多くなる傾向がある。今後も、利用者の声を聴き、施設の利用促進につなげていきたい。

B 委員： 利用料金に幅が設けられているか。

申請事業者： 施設の設置管理条例により、利用料金の幅が定められており、その幅の中で利用料金を決定している。利用者の負担につながることから利用料金の幅の上限までは増額しないが、部屋の利用状況を踏まえて現行料金から全体として10%程度の増額とした。人件費や物価の高騰があった場合は市との協議により、利用料金を変更する可能性がある。

A 委員： シルバー人材センターと当施設の管理運営を担うことの関連性を確認したい。ワークプラザの管理運営のためにシルバー人材センターがあるのか。

申請事業者： シルバー人材センターの豊富な人材を有効に活用するために、ワークプラザを管理運営することは利点がある。ワークプラザの管理運営のためにシルバー人材センターがあるわけではない。全国的にも、駐輪場など特定の時間に多くの人員を要する施設は、人材を有効活用できるため、指定管理を担うケースは多い。

なお、専門的な知識を有する業務等は、市内事業者を中心に再委託をしている。

A 委員： ワークプラザの業務は、質・量ともにシルバー人材センターの会員の有効活用になっており、会員の生きがいになっているということで

良いか。

申請事業者： そのとおりである。

A 委員： 具体的にどのような営業活動を行っているか。

申請事業者： 現在、約 1200 人の会員がおり、会員に仕事をさせていただくために、職員が日々営業活動を行っている。また、稼働率の低い部屋を活用するため、講座の提案等も行っている。

D 委員： 稼働率の考え方を教えていただきたい。

申請事業者： 稼働率は、利用人数ではなく利用時間を基準にしている。稼働率の低い部屋や空き時間を埋めるよう運営している。また、当施設の利用が埋まっている場合は、市内同程度の公共施設の予約状況を確認し、案内することで、市内の公共施設を有効活用できるよう意識している。

<全体審議>

B 委員： 審査シートの点数配分が施設によって異なる理由は何か。

事務局： 施設によって評価したいポイントが異なるため、施設の所管課により点数配分を変更してある。

C 委員： シルバー人材センターに年齢の制約はあるか。

事務局： 現在、原則 60 歳以上の方から会員となることができる。

所管課： 現在の会員数の内訳によると、80 歳以上の方も会員となっている。

D 委員： シルバー人材センターは、他の指定管理施設を担っているか。

所管課： ワークプラザ柏崎だけである。

E 委員： 職員の配置について、責任のある 4 名の方全てが兼務又は非常勤となっているが問題ないか。

所管課： 要求水準書では、館長を置くよう定めているが専任は求めているため問題ない。

<採点及び結果>

出席委員 5 人全員がシルバー人材センターを「適当と認める」とした。委員長から結果を発表し、出席委員全員がシルバー人材センターを指定管理者候補者として認めた。

カ 柏崎海洋センター（シーユース雷音）の選定審議

申請事業者：公益財団法人かしわざき振興財団（以下「かしわざき振興財団」という。）

<プレゼンテーション> パワーポイントにより説明（説明者 3 名）

<質疑>

E 委員： OTA（オンライントラベルエージェント）を活用した予約方法の拡充を進めるとのことだが、現在接続している OTA の手数料はどれくらいか。また、自社予約（ホームページ・電話）比率はどの程度か。

申請事業者： 既に接続している OTA の手数料は 1 件につき 7～8%程度で比較

的安い方である。他のOTAは10%を超えるところもある。新規顧客開拓には、接続するOTAを増やす必要があるが、その分手数料が増えてしまうため、自社予約比率の改善も必要である。

現在の自社予約比率は、夏期以外は3割程度と少ない。自社ホームページの予約機能を再開することで、自社予約比率を改善したい。

D 委員： 予約方法によって宿泊料金が変わることはあるか。

申請事業者： 今のところ同一料金で考えているが、他の宿泊施設では、自社サイトを一番安価に設定し、差を付けているケースも見られる。今後の状況を見ながら検討したい。

A 委員： コロナ禍で苦労されてきたことは理解するが、前回（2年前）の申請書類、昨年度のモニタリングシート、今回の申請書類の収支計画に乖離が見られ、信頼性や実現性に懸念がある。応募者としてはどのような考えで積算したか聞かせてもらいたい。

申請事業者： 収入は改善が期待できるが、光熱水費や人件費の高騰、物価高があるため、支出は今後厳しくなるものとして計画した。

申請事業者： 今年度、施設利用が急激に回復した。しかし、予約・問合せは来るものの、宴会利用の一部は人手不足で断らざるを得ない状況だった。人員体制を確保することで、利用していただく機会を逃さないようにしたい。

宿泊利用も、以前より閑散期のビジネスユースが増え、秋以降も一定の利用が見られるようになってきた。宿泊業での収入確保も目指していきたい。

B 委員： 接遇マナー向上チェックシートについて、どの程度の頻度でチェックをしているのか。また、利用者からはどのような要望があるか。

申請事業者： 年1回、職員に接遇マナー・チェックシートを配り、支配人が面談して確認している。要望に関しては、ベッドの近くにコンセントが欲しい・防音性能を高めてほしい等のハード関係、加湿器や空気清浄機を貸してほしいといった備品関係等がある。コンセントに関しては延長ケーブルを貸し出して対応している。

C 委員： 事業計画書中にある食事写真が非常に魅力的だと感じた。食事プランはどこで周知しているのか。

申請事業者： 管理運営を担っている公共施設でのチラシ配布、柏崎日報や柏崎情報パークへの掲載、施設ホームページへの掲載等である。

ランチバイキングは1週間経たないうちに満員になるほど好評である。

<全体審議> なし

<採点及び結果>

出席委員5人全員がかしわざき振興財団を「適当と認める」とした。委員長から結果を発表し、出席委員全員がかしわざき振興財団を指定管理者候補者として認めた。

キ 新潟県立こども自然王国（以下「王国」という。）の選定審議
申請事業者

- ・伊予鉄総合企画株式会社（以下「伊予鉄総合企画」という。）
- ・株式会社生態計画研究所（以下「生態計画研究所」という。）

<伊予鉄総合企画 プレゼンテーション>

パワーポイントにより説明（説明者3名）

<質疑>

E 委員： 愛媛県から当該施設まで距離があり、地域特性も異なると思われるが、人員確保、「えひめこどもの城」との連携、スキー場の運営についてどのように考えているか。

申請事業者： 人材確保については、現在の雇用者の再雇用を促進し、地元の方を雇用する。また、元々は四国の人材派遣会社であり、新潟にもネットワークがあり連携できる企業が複数社ある。

確かに、愛媛と新潟で距離はあるが、WEB 機能を活用しつつ行き来することで連携していきたい。

スキー場について、愛媛にもスキー場はあるが、地元の方を雇用し、協力しながら進めていきたい。

A 委員： 類似施設の管理実績は四国のみである。チャレンジ精神は非常に評価するが、新潟県に事業を拡大する理由は何か。また、距離の問題で「えひめこどもの城」とうまく連携できるかは疑問である。

申請事業者： コロナ禍において、様々な地域とつながったことをいかしたいと考えた。兵庫県の指定管理にも立候補し、全国で協力し子供たちの健全育成に取り組むことで、今までにない挑戦をしていきたい。また、今まで王国と連携し、プログラムを共同開発してきた経験があるため、決して遠い存在ではない。

指定管理では、四国のみだが、東京にアンテナショップを出店するなどチャレンジしている。

B 委員： 全国的な構想があるようだが、王国を外部からみて改善すべき点も含めてどのような取組を想定しているか。

申請事業者： 施設の老朽化はあるため、企業と共同し、遊具の入替等も実施していきたい。また、イベントの告知や内容のノウハウを活用し、大規模なフェスイベントや中高生なども対象にしたイベントを開催したい。

D 委員： 王国は宿泊施設を兼ね備えているが、宿泊事業の経験があるか。また、宿泊を絡めたプログラムを考えているか。

申請事業者： 「えひめこどもの城」に隣接した宿泊機能をもった施設を指定管理者として担っていた経験やキャンプ事業の経験はある。プログラムについては、星空やキャンプファイヤーなど夜にしか体験できない自然体験やイベントを実施したい。

A 委員： 収支計画が0円になっているが、どのように算出したか。

また、危機管理体制について、火災対応が主なものであり、その他

の自然災害や高柳の地域特性による気象災害についてどのように考えているか。

申請事業者： 収入に応じた支出の中でやっていくといった考え方である。

緊急時対応マニュアルについては、県や市の災害対応マニュアルに沿い、地域に合わせたマニュアルを作成する。

A 委員： 王国に応じた災害対応マニュアルを作成するか。

申請事業者： そのとおりである。

E 委員： 東京のアンテナショップを活用した情報発信の可能性はあるか。

申請事業者： 現在は、伊予鉄や愛媛について PR しているが、王国は東京も商圏であると認識しているため、活用したいと考えている。

C 委員： 施設長は地元雇用で考えているか。

申請事業者： 定期的に愛媛からも行き来するが、基本的には、地元採用したいと考えている。また、応援職員を定期的に愛媛から派遣することも考えている。

<生態計画研究所 プレゼンテーション>

パワーポイントにより説明（説明者3名）

<質疑>

E 委員： スキー場の夏期活用について、散歩コース整備はどの程度のコース整備となるのか。また、キャンププランや景観作物栽培の検討方法と実現の可能性はどの程度あるか。

申請事業者： スキー場内にある市道整備を市の道路維持課が行っているため、その付近の整備を予定している。実際に散歩している地元の方がおり、以前はひまわりの植栽を行った実績もあるため、地元と協同して行っていきたい。

B 委員： 既に来年度は予約でほぼ埋まっている状況とのことだが、プログラムではなく営業日ベースか。

申請事業者： 月曜の定休日以外の平日となる火～金曜日は埋まっており、金～日曜日の利用を案内している。

B 委員： SNS 以外に営業はどのように行っているか。

申請事業者： 市民利用が多いため、口コミやリピーターが多数いる。

D 委員： 宿泊の稼働率はどの程度か。

申請事業者： 夏期に関しては 50 数%となっているが、10 月頃から冬期の閑散期が課題となっている。冬場はスキー場もあるため、宿泊を伴っての利用を進めているが、市内利用の学校がほとんどのため、なかなか宿泊につながらない

D 委員： 子供会の利用はどの程度か。また、大人だけの利用の場面はどれだけあるか。

申請事業者： 子供会の利用は、コロナ禍に伴ってほとんどなくなったが、昨年度から徐々に戻りつつある。最近ではスポーツ団体の利用が増えている。

大人の利用に関しては、王国で児童館の協議会を請け負っているた

め、宿泊場所に王国を勧めている。

A 委員： 収支計画について、抑え気味の計画にした根拠は何かあるか。

申請事業者： 物価高騰に伴って各種経費が高騰している状況であり、利用料金を条例以上に上げることはできない。そのため、この計画がぎりぎりのラインであると考えており、実現可能な計画とした。

E 委員： 管理施設が増えているようだが、新規雇用を含めて人員計画はどうなっているか。

申請事業者： 他の地域の指定管理施設の評判を受け、自治体側から話を持ち掛けられ引き受けている状況である。徐々に職員数は増やしており、今年度は新採用6人を採用した。

<全体審議>

E 委員： 指定管理者候補者は、委員の総合計点数ではなく、1位とした委員が多い方が選定されるか。

事務局： そのとおりである。

<採点及び結果>

過半数を超える出席委員（5人中4人）が生態計画研究所を上位とした。委員長から結果を発表し、出席委員全員が生態計画研究所を指定管理者候補者として認めた。

(4) その他

非公募による指定管理者更新施設の事業計画書についての報告

(5) 閉会